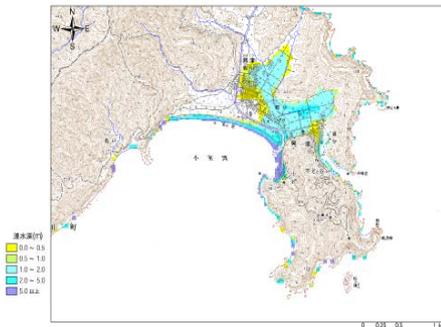


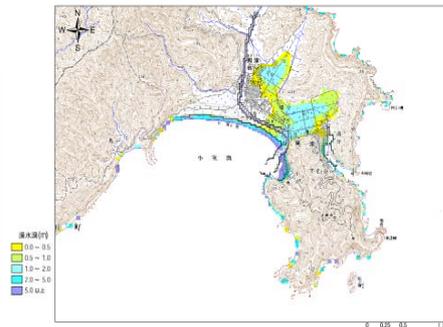
# 南海地震から身を守るための 地域と連携した防災教育



## 高知県作成の津波浸水予想図 05年版



CASE-A 最終防潮ライン施設等が無いとした場合



CASE-B 最終防潮ライン施設等が機能するとした場合  
注)水門・樋門・堤防等は全て「開」の状態

**最高波高8～12mの津波は  
18分以内に興津地区に襲来すると予想される**

## 興津地域 取り組み目標

「 孤立が予想される地域で、南海地震から身を守る  
ため、地域と連携した防災教育の推進 」

平成17年度 文部科学省指定により本格的取り組みスタート

2名代表者制

( 興津小学校長 )

( 興津地域大総代・小室総代会長

・興津地域防災総括責任者 )

興津地域の防災教育の成功の第一の要因は …… 当初から  
学校と地域の代表者が、組織の責任者として車の両輪のように連携  
しながら取り組みできたこと ……学校だけなら、すぐに限界が……

PTA、保護者会、老人クラブ・消防団をはじめ興津地域の主だった組織がすべて参加しています。

### 興津小の防災教育 取り組みのポイント (指定当初よりの基本方針)

- 1 小学校では、先進地域で取り組まれている「遊ぼうさい(防災)」という視点を大切に地震に対する恐怖心だけを植えつけるのではなく、いろいろな取り組みを楽しみながら経験する。  
2年目から災害復興力をやしなうために、サバイバル精神の涵養をプラスする。
- 2 児童数(41名…現在35名)、職員数(11名)を考慮あまり大きな背伸びをするような取り組みは避け、ささやかでもやってよかった、子どもたちと保護者・地域の意識が変わったねという防災学習をすすめる。(2009年度は36名の児童数 5.6年生は15名)
- 3 学年ごとに年間学習指導計画をたて、防災学習を実施する。ただ地震・津波について調べるのではなく、自分の「命」を守り、他人の命を守ることを考えながら防災学習をすすめる。
- 4 学習を深める中で、地域の人たちとのかかわりを大切に、地域の人と一緒に地震・津波に強い興津地域をつくっていく。
- 5 子どもたちが防災について学んだこと、経験したこと、感じたことを積極的に地域に情報発信する。
- 6 防災力を強化にむけ日々努力している地域の姿を知り、将来の地域防災のリーダーを育てる。
- 7 南海地震のとき町の中心地のある台地部をつなぐ道が寸断され、一定期間の地理的孤立が予想される中で、3地域の共同性を高め、地域全体の防災力を強化する取り組みを行う。
- 8 やってよかった!! 取り組んだみんなが元気になり、「地震・津波に強い地域にかわっていく」ことを実感できる。子どもたちは地域から知恵と力をもらい、地域は子どもたちから…  
(相互利益主義を大切に) …防災を取り組まなければという義務感だけでは息の長い取り組みはできない。できれば学校・地域・行政のよい関係のキャッチボールを(三位一体の取り組みへ)

## 興津小・委員会の主な取り組み（H17～21）

1. 親子防災視察〈H17年高知市浦戸地区へ〉
2. 徳島県防災センターへの視察研修(H21は志和小と合同で)
3. 避難訓練と救護法講習会（地域への広がり）
4. 薪作り教室・防災サバイバルキャンプ
5. 非常時を想定した地域防災炊き出し(H17・19・21)
6. 防災講演会から防災シンポジウムへ
7. 進化する防災マップづくり（H17～ ）
8. 行政との提携（海拔シール）すすむ避難場所整備  
念願の保育所・さくら貝の移転実現へ（H21に）
9. 防災便りの発行(全戸配布) 3・4年副読本に教材化
10. 総務省指定そして国交省・京大・筑波大との共同授業

## 簡易担架 秋の大運動会で地域に披露（H18年より）



〈救急・救護法講習会・・・PTA・地域と〉  
学年ごとに分かれ児童と保護者・地域の方で、  
包帯法、簡易担架づくり（ロープ・衣服・毛布  
等を使って）、心肺蘇生法の実習をおこないま  
した。実習をおこなう中で、**子どもたちも、大人  
も簡易担架作りの名人**になりました。  
担架作りはいろいろと工夫をしながら、**運動会の  
種目**に取り入れました。



**H21年6月 第2回薪づくり教室**  
「なかなか やるね」と森林組合の方にほめられました



第2回目なので、ナタを使っての薪割りは2年生から挑戦しました。やはり、経験の積み上げは大切です！  
また、保護者のほぼ全員が参加しました。

**H20年10月に 第2回 防災サバイバルキャンプ (3~6年)**  
**ドラム缶クドでご飯炊き はじめて夜間避難訓練を実施！！**  
**21年は台風襲来でキャンプは中止 全校児童防災炊き出し訓練を実施**



旧窪川町初の防災炊き出し訓練（H18.2.5）

**400名の参加者で大成功！**

### 目 的

- 近い将来予想される南海地震において、一定期間地理的孤立が想定される興津地域で非常時をのりきっていくキーワードは、地域の共同性であることを実践的に学ぶ。（指定の最重点課題）
- 災害時の不便さを想定し、電気、ガスを一切使わず薪と大なべで炊飯、フタ汁作りをおこない、非常時の調理法を学び、世代間交流を深める。
- 防災グッズ、非常食等の展示をおこない、啓発に努める。

会 場 興津小学校運動場

（雨天の場合は、校舎南側にブルーシートを張り調理、体育館で試食）

**参加目標人数 400名**（興津地域住民の1/3以上）

**食事は500食分用意** 役場は非常食100食分用意

（ 推進委員会での提案では、はじめは無理の声も多く聞こえた ）

## 第2回興津地区防災炊き出し訓練

興津峠崩落による地理的孤立が現実視される3地域の共同性を高めことに主眼をおいた「地域防災力」強化に向けた創意工夫した炊き出し訓練を再度実施

※2年前の取り組みの教訓をふまえての継続的訓練

※参加人数のみでなく、準備への参加人数の増加等質的な向上を目標の一つにくわえる

**平成19年12月2日（日）興津小学校を会場に**

午前中 防災炊き出し（4～500人規模）

午後 「地震、津波に強い」興津の地域づくりを目指すシンポジウムとセットで実施

## 炊き出し訓練の前日



前日、炊き出し訓練の時に使う、お米や薪を準備しました。

60kgの米をとぐのは小学校の全校児童

2トン車1台分の薪を割るのはPTAの男性と推進委員。

約100kgの豚汁の食材の調理は、PTAのお母さん、婦人会・老人クラブ等々。

前日の準備は42名の児童も含め、90名が参加

## 炊き出し訓練当日

炊き出し当日、朝から42名の児童が協力して炊飯袋にといだお米を入れ、ご飯の準備。

外では、2回目より正式参加の中学生が湯を沸かして炊飯袋が来るのを待っている。

※中学生は1回目の炊き出し訓練経験者。小中学生にも1回目の経験がきちんと引き継がれています。

**訓練の継続は大切です！！**

お米を運んでいるのは2年生(現4年)の男子です。地域の未来を担う子が育っています



## 1回目を上回る450名の参加 時間も大幅短縮

児童は、30分ゆであげ、クーラーで保温した炊飯袋を切るのに苦労しました。役場提供のお湯をかけて作る「五目ご飯」も試食。



**炊き出し訓練の準備への参加者は2日間で250名**  
**H21年の訓練は、前日の準備は取りやめ、当日だけでおこなうことを決定！！**  
**また、炊飯袋を使わず 大なべでおいしいご飯を炊くことにも挑戦します**

## 第3回興津地区防災炊き出し訓練

平成21年12月6日（日）

今まで2回の訓練の成果をふまえ一層の「地域防災力」の向上、とりわけ災害時を想定した実践的訓練をおこなう。

### < 重点目標 >

1. 前日の準備をおこなわず、当日の朝8時からすべての準備をおこない、11時30分には4～500人分の調理完了（薪切り、テント・机・椅子準備も含む）
2. 5升炊きの大なべで直接炊飯をおこなう。（お年寄りの知恵の伝授）

- 高知県の起震車による地震の揺れ体験
  - AED・救急救命法体験コーナー
  - 地元ホームセンターによる家具転倒防止器具展示コーナー
- ※ 日々の防災意識を高める場を設けることとした！！

**< 今回の訓練の成果…400名が参加（準備に250名） >**

- 100kgの豚汁の食材切り（想定時間は2時間……中学校女生徒をはじめ50名の参加で30分で完了（調理は10時半にはすべて完了）
  - 5升炊きの炊飯（2鍋で2回）1時間半で大変おいしいご飯炊き上げる。
- ※ 当日使った8つの大なべを活用すれば、興津地域 全住民1100人の  
ご飯が1時間半でできることを実践的に証明されました！！**  
起震車体験、AED、家具転倒防止コーナーにもたくさんの参加者が！



2年後の訓練は  
9時からスタート  
することを決定！

**2代目 防災マップづくり（平成17年度）**

- ① 11月末から 5・6年生児童による『興津地区防災カラーマップ』づくりがスタート。近い将来、予想される地震・津波に備え、防災意識をたかめ、「より早く安全に避難場所に避難していただく」ことを目的に、子どもたちの足と目で調べながら、カラーの手づくりマップの完成をめざした。現在の避難場所の課題を学び、提言もおこなう。
- ② マップの原版 は5・6年生が4つの班にわかれて、分かりやすいものになるよう試行錯誤を繰り返しながら作成した。防災マップ原版は2月上旬に印刷所に入稿した。マップの大きさを**A2のカラー版**にしたのはカレンダーのように家の目に付く場所に掲示してもらい、いざというときに役立ててもらうためである。長期の掲示のため、やわらかい色となるように工夫を凝らした。マップは3月10日に総代・区長便で 地域500戸に全戸配布した。





## 平成19年度より

### 6年生 総合的な学習の柱は、進化したマップづくり

フィールドワークしたものを目にみえるように、まとめる作業を防災マップ作成という形にした。作成にあたっては、以下の点に気がつけた。

- ★ **地域性・テーマ性 (地域災害の特性や問題点など)**  
「地域の災害や危険な場所などのを想定した作品作りができているか」  
「地域災害の特性や問題点などが明確になっているか」
- ★ **ビジュアル性 (地図などの工夫)**  
「色や写真、イラストなどを効果的に活用しているか」  
「多くの人に見やすく、わかりやすい作品になっているか」
- ★ **提案性 (子どもの視点でのまちへの提言など)**  
「子どもならではの発見やまちへの提言が書かれているのか」  
「マップを通して伝えてたいことが明確になっているか」
- ★ **教育効果性 (子どもたちの防災意識の変化など)**  
「マップを作成するにあたり、しっかり地域を調べているか」  
「地域住民のコミュニケーションなどにより、多くの人から見えるか」  
「学んだ姿勢がみえるかどうか」

今まで興津小学校で取り組んできたマップづくりのノウハウが  
第4回小学生ぼうさい探検隊マップコンクールで見事開花!!

## H19.5 フィールドワーク はじめに 向畑（小室第一避難場所）へ



H18年度 最初に整備された避難場所。  
車椅子の人のことも考えた登り道になっています。（小学生の提言が実現）。避難場所には、  
防災倉庫もあり、震災後の救助活動に役立つものも入っています。

## H19年8月 登校日 地元の講師を招いて 全校児童44名で防災学習 昭和の南海地震の話听了

H20年 牧野さんの話（阪神・淡路の震災体験者）を听了



講師の方は7歳の時興津で被災

地震の揺れの様子津波による大きな被害波が遠浅の小室の浜の沖まで引き、その後再び津波が来たこと。大きな被害を受けたこと。地域でみんなが助け合い災害からの復旧を果たしたことなど詳しく話をしていただきました

阪神・淡路の体験者の  
牧野さんから人々の  
日々のつながりの  
大切さを学びました。

## 高齢者用グッズ装着 大変日記

普段 12m地点まで 2分44秒  
疑似体験 12m地点まで 7分19秒

津波到着時間までは10～20分です！！

全員自宅から  
避難場所までの  
時間を検証しました。  
疑似体験では平均  
3倍近く時間が  
かかりました。



興津地区と他の地域  
を結ぶ唯一の生活  
道であるが、雨が降  
ると、石が落ちてい  
たりする。現在、崖  
崩れがあり、土のう  
で応急処置をしてい  
ます …

※ 写真は3年前の  
様子です。

現在は改良工事も完  
成し安全になってい  
ます。

(このほかにもたくさんの  
小崩落箇所があります)

## 6年生は1年間の取り組みを 児童の防災提言にまとめました！！

- 保育園・デイサービス「さくら貝」は、海も近く津波の影響を受けると考えます。また、避難経路にある橋も落ちると予想されているので助かる可能性が低いと思います。
- 向畑の避難場所・防災施設は、車椅子の人のことも考えて作られているので感心しました。しかし、多くの避難場所が震災の影響を受けたとき、そこまでいけるかどうか不安に思えます。また、個人の家や公共施設などが避難場所となっていますが、鍵などがかかっていることもあり、入りくいかもしいない。
- 他の地区と結ぶ生活道が一本しかなく、その道は雨が降るとよく石が落ちています。現在もがけくずれがあり、土のうで応急処置をしているのが現状です。そんなことを考えても、震災後、地域は孤立する可能性が高いと思います。早く地震にも強い道路整備が望まれます。
- 興津地域が震災による津波の影響を受けたとしたら、ほとんどの家が浸水の被害を受けると予想されます。そのため、**一時避難場所として安全だと考えるビニルハウスを使えるといい**と思います。



## H19年度 第4回ぼうさい探検隊フォーラム 防災担当大臣賞受賞 (防災部門での最高賞)



子ども高知新聞  
「防災マップを作ろう」  
特集号で紹介されました



## 12.2 「地震、津波に強い」興津地域を つくるための防災シンポジウム

<目的> 興津地域ぐるみ学校安全体制整備推進委員会が活動を開始して本年で3年目となる。  
これまでの興津地区の防災の取り組みを各組織で総括し、「近い将来予想される南海地震時の揺れと津波に強い興津地域にするための各団体の取り組みや防災提言について発表、討論をし、地域の防災力強化に資する。地域全体が主体的に防災のあり方(地域づくり)を考えることを目的としたシンポジウムとする。

興津地域は旧窪川町で高知大学岡村教授を招いてはじめての防災講演会を実施。  
H18年までに計3回の大学の先生による「防災講演会」をおこなう。  
先生の話聞く講演会から、住民自らが主体者として「地震・津波に強い興津地域」にするために何をなすべきか語り合うシンポジウムを昨年より計画

「第2回防災吹き出し」の午後興津小学校体育館で実施  
参加目標人数は200名以上(今までの最高は約100名)を目指す

## シンポジウム コーディネーター

国立大学法人 高知大学理学部応用理学科 教授  
教授による特別講演 13時35分～14時15分(40分間)

<演題>

近い将来予想される南海地震の揺れと津波について  
地域そして家庭の備えは進んでいますか  
( スマトラ沖地震の津波映像もまじえて )

## シンポジスト

- 四万十町長  
四万十町の防災の基本計画について、とりわけ海岸部対策について
- 興津地域大総代・小室総代会長・興津地域防災総括責任者  
興津地域ぐるみ学校安全体制整備推進委員会代表  
興津地域全体の防災の取り組みについて
- 興津保育所保護者会長  
興津保育所の防災上の課題と保護者の願い  
興津保育所の位置問題は、興津地域全体で考えなければならない、別格の存在である！！
- 興津小学校児童代表 6年生 6名  
興津小学校の取り組み報告・私たちの防災提言
- 興津中学校生徒代表  
興津中学校の取り組み報告・私たちの防災提言

保育所の移転は、保護者・  
地域の強い願いです！！



防災シンポジウム風景  
200名をこす参加者がありました



町長より「平成21年度中に保育所の  
移転を完了する」ことが、正式に表明  
される。

子ども達の地域をくまなく歩き、防災  
提言にまとめたパリーポイントによる発表は  
参加者に大きな感銘をあたえました。

## 電柱に海拔ステッカーを取り付ける活動 ( 地域と町役場総務課の依頼で5・6年生が )

海のすぐ近くの  
保育所 海拔たった3m  
8mの津波が来たら  
どうなるの!!

忠霊塔避難場所海拔21m  
ここは安全だ!!  
しかし簡易高度計では正確な高さは  
出ません(高知大の岡村先生の指摘)・・・  
そこで地元の建設業者さん5社に  
ボランティアで測っていただきました

## 海拔高度を専用シールに記入

建設会社の協力によって計測された海拔を記入  
みんなの命を守るシール 心をこめて、書かないと





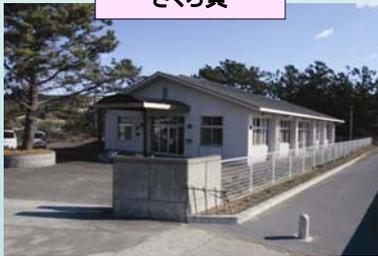


**子どもも大人も願った 長年の地域課題の解決へ  
保育所・テイサービスセンター「さくら貝」の移転へ決定！**

興津保育所



さくら貝



移転先です



当初保育所の移転のみであったが、  
今年度さくら貝との複合施設の移転建設決定  
H20年度中に用地確保と整備  
H22年度2月28日に完成へ(6月29日起工式)  
最高のローケーション・津波の心配まったくなし

**次々整備される避難場所 昨年度は 浦分西宝寺が**

マップで子ども達が指摘  
した西宝寺避難場所



本年度 浦分地区 海津見神社 (地上分の避難場所整備は完了)  
そして 避難タワー 郷分地区に3~4基建設予定

## 小室第1・2避難場所も舗装工事完了 ソーラ・風力誘導灯も



## 地 域 の 方 と

興津地区 大総代  
総 代

私たち総代は、地域の住民の命を助けるために、避難場所を作ることを要望してきた。

四万十町の行政も、私たちの要求を受け入れ全国に例を見ないくらい早い取り組みをしている。私たちは、地域のどこに避難場所をつくるのがいいかを考えたり、地域の人との交渉を受け持っています。

また、昨年8月の末に地域独自の避難訓練を行ないました。しかし、地域の子どもや大人の参加が少なくとても残念でした。興津地域は、津波は絶対来ます。だから、そこから逃げ、避難場所までいくことが大切です。自分の命のために避難訓練を大切にしてほしいと思います。

( H21年度地域での避難訓練は  
全児童・生徒が参加 !! )

## 行政の方と

四万十町 町長

(平成20年10月30日 町長室で)

私たち6年生は、四万十町長に南海大地震に対してどのような取り組みをしているか聞き取りを行ないました。興津地域の取り組みは5年前から始まり、現在3ヶ所目の「西宝寺」避難場所の工事が行なわれています。今後、近くに高い場所がないところは避難タワーを建設し、そこを避難場所にするそうです。建設予定の避難タワーの写真も見せてくれました。全ての避難場所が完成するのは、あと5年ぐらいだそうです。

また、四万十町の街と結ぶ生活道は、平成26年度中の完成を目指して現在工事を進めていますが、道路特定財源が一般化になると、その予定が変わるそうです。政治の変化が、私たちの生活に直接影響を与えることを知りました。

## 平成20年度 私たち6年生の防災提言

- ・ 地域や保護者の要望により、保育園、デイサービスセンター「さくら貝」は、来年度には安全な場所へ移転することになってよかったと思う。
- ・ 向畑や忠霊塔の避難場所は、今年度になって舗装され、より安全場所になっていた。
- ・ また、浦分地区の「西宝寺」という避難場所が整備され始め、今年度の完成を目指している。2ヶ所の入り口が設けられていて、津波が到着するまでに地域の多くの人が避難できるようになった。
- ・ 避難場所には、トイレや給水できる施設はないので設置するようにしたらよいと思う。また、夜間の避難訓練を行なったときには、誘導灯の灯りが暗いことが分かったので改善すると必要がある。
- ・ 近々、海津見神社の避難場所が整備されることと、浦分地区と郷分地区に、避難タワー3基ができるようになっている。
- ・ 今年度、地域が開催した避難訓練の参加者が予想以上に少なかったため、地域の人たちが南海大地震の備える気持ちを持つことが大切になってくる。

**平成21年度 さらに進化する防災マップづくり  
今回は浸水予想図と、避難場所、  
子ども達の家をリンクさせました**

第6回ぼうさい探検隊フォーラム審査委員特別賞受賞（3年連続の受賞です）



大きく整備された  
興津地域の避難場所と県の浸水予想図をリンクさせたA2版子ども作成の手づくり防災マップ大改訂版を2月末までに作成し、3月地域全戸に配布！！



**平成22年度  
興津防災マップの  
構想も出来上がっ  
ています！！**

次のマップは興津岬を含めた興津地域全体の課題に取り組みます

つねに進化する  
マップづくりで  
す！！

**4年間 地域とともに取り組んだユニークな取り組みが  
評価され、2008年度 第5回「1.17防災未来賞  
「ぼうさい甲子園」」小学校の部 ぼうさい大賞を受賞**



震災復興の兵庫県のマスコット「はばタン」も登場して会場を盛り上げた1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰式

**賞金の20万円で テント張りを購入しました  
(テントは興津地区防災倉庫で保管)**



**平成21年興津小と興津地域ぐるみ学校安全体制整備推進委員会の取り組み**

**本年より3年間 総務省消防庁の  
「地域防災スクール」事業の指定を受ける**

平成21年度地域ぐるみ学校安全体制整備推進委員会 実施計画書

月	実施項目	実施内容	参加の参加者及び人数	担当者
1	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
2	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
3	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
4	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
5	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
6	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
7	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
8	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
9	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	

1	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
2	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
3	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
4	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
5	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
6	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
7	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
8	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	
9	地区ぐるみ学校安全体制整備	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)の発足(予定)	地区ぐるみ学校安全体制整備委員会(法政会)	

地域との話し合いの中で よくここまで取り組みが進んだね！！  
成功の要因は・・・何だろうね？

- ① 絶え間ない学び、子どもも大人も（取り組みのマンネリ化を防ぐ！！）  
その中で取り組みが進化していく  
子ども・・・遊ぼうさい そして +サバイバルに マップづくり  
大人・・・県内外の先進的な取り組みより 海拔高度シール・避難タワー等々
- ② みんなで汗をかきあう中で「やってよかった」という確かな達成感の共有を  
子ども達もがんばっている。大人もみんなのために行政と力をあわせて  
がんばっていることを知ってほしい  
※ 整備された避難場所の見学の時、代表の船村さんよりの言葉  
子どもは地域から知恵と力をもらう、地域は子どもから力を・・・  
そして行政はみんなのがんばりを力に施策の推進を・・・  
学校・地域・行政が一体となって、よい意味でキャッチボールができていて  
そのような地域は、全国的にも少ない。  
（防災マップコンクール表彰式での審査委員長よりの講評）  
※ 教育現場でよく使う「巻きこむ」は 興津では使いません！！  
相互利益主義の大切さ 義務感のみでは長く続かないと思います。
- ③ 子どもと高齢者の目線での地域づくり（子どもの声がいろいろな所に反映）
- ④ 情報の発信（地域 県内外 そして全国へ）・・・評価をうけ、地域が元気に
- ⑤ 町より継続的な財政支援（文科指定終了後 H18, 19, 20, 21年）

平成21年興津地域ぐるみ学校安全体制整備推進委員会（6月）の中で

- ◎志和地区との連携強化を確認（年数回回の合同役員会）
- ◎水の備蓄は・・・6月から工事が始まる保育所・ディサービスの施設（避難場所の中核施設）に飲料水確保をかねた水槽を建設（決定）同時に同施設の倉庫に炊き出し用に保管する「大なべ、クド」の寄付を地域に依頼。数がそろわない場合は購入も検討。
- ◎米の確保（玄米にするのか・・・？）

興津小学校 今後の取り組みの方向は

- 全戸配布版マップ作成・・・この5年間の変化（避難場所の整備）を記載した子ども手づくりのマップ（A2カラー版）をH22年3月に地域全戸に配布
- 地域と子どもたちの願いだった保育とディサービス移転(H22.2)  
・・・落成行事に積極的にいかかわる
- 年間の防災学習授業・取り組みは・・・今までの取り組みと基本的には大きく変わりません・・・中味は創意工夫精神でバージョンアップを  
（※ ある方から「興津は頂点にたったでしょう・・・あとは落ちるだけですわ・・・」）  
しかし、私たちは自分たちの基本的スタイルを崩すことなく、あせらず つねに新鮮かつ攻めの姿勢で、ユニークな取り組みを自然体で・・・！！  
< 今 子どもたちから・・・ >  
避難場所が、あと3年で整備されます（海水浴客の方の分も含めて14～500人分）。  
海拔シールも張りました。しかし家具の固定をしなければ・・・安心して生活できません・・・  
・・・私の家は町営住宅です・・・ <子どもの素朴な声です>

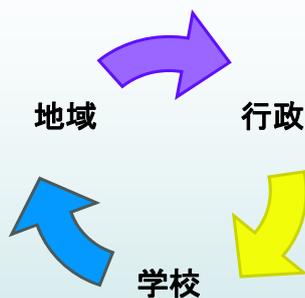
同じ海岸部の志和地区と共同した取り組みを推進・・・そして四万十町（淡路島と同じ面積です）全体へと 今年のは町の区長会が兵庫県人防センターで研修

津波避難場所及び津波避難標識等位置図（興津地区）



は平成17年度以降 整備された 避難場所(予定地含む) あと2~3年でインフラ整備完了!!

## 災害に強い町づくりを目指して



このように地域・行政・学校がともに災害に強い町づくりを行ってきた成果が、現在の興津地域を作り上げてきました。

**H20年度より県道の重点整備区間として、年間700m近く1.5車線化の道路整備がすすんでいます (H21年度は4業者が工事)**

**H19年までは、年間150m前後の整備のスピード**

防災インフラの整備はあと3年で終了。その後つねに追及しなければ  
ならないのは地域の住民の連帯を基本とした「防災力」の強化  
<自助・共助・公助がうまく絡み合った…「防災文化」の創造へ >

国交省国総研・京大・筑波大と連携した「土砂災害に関する教育プログラム」の取り組みが  
1月21日よりスタート(2年計画)…トータルで地域防災を考える取り組みに

### 専門家らを講師に招き 土砂災害を勉強

四方十町立興津小 危険マップ作成



四方十町立興津小の土砂災害対策として、専門家を講師に招き、土砂災害の危険性や危険マップの作成方法について勉強会を行いました。講師は、土砂災害の危険性や危険マップの作成方法について、具体的な事例を交えて説明しました。また、危険マップの作成方法についても、実際に作成する様子を見学しました。

講師は、土砂災害の危険性や危険マップの作成方法について、具体的な事例を交えて説明しました。また、危険マップの作成方法についても、実際に作成する様子を見学しました。

### 土砂災害に備えよう

興津小 京大助教招き地図作製



興津小の土砂災害対策として、京大の助教を講師に招き、土砂災害の危険性や危険マップの作成方法について勉強会を行いました。講師は、土砂災害の危険性や危険マップの作成方法について、具体的な事例を交えて説明しました。また、危険マップの作成方法についても、実際に作成する様子を見学しました。

講師は、土砂災害の危険性や危険マップの作成方法について、具体的な事例を交えて説明しました。また、危険マップの作成方法についても、実際に作成する様子を見学しました。



毎日新聞 2010. 1. 22



高知新聞 2010. 1. 25

取り組みの様子は 高知新聞 毎日新聞 テレビ高知の「イブ特」で紹介されました

最後に みなさんに 新聞記事より

興津小学校児童の防災に対する取り組み基本のスタンス  
(高知新聞平成21年1月の記事より)

「いつも防災」の気持ちで、地域の実態に合ったユニークな取り組みを 楽しく 気長!!